

「今、私たちにできること」

留辺薬高等学校 2年

山田 ななみ

私達はあまりにも世界各国の裏の部分を知らない。端から見れば、とても有名な観光都市が少し見方を変えるだけで悲惨な事実をひた隠しにする仮面を被った国に様変わりする。ニュースで取り上げられる真実はほんの一握りだ。そのような情報を知る手段もわずかである。

私がこう思うようになったのは、つい最近である。私は世界の悲惨な事実を学習する時間を与えられ、グループで話し合った。しかし、その事実は自分が思うよりも悲惨でひどいものだった。子ども達が兵士にされ、ときに幼なじみと戦わなければならない。反政府軍にさらわれ、要求に対し嫌と言えば殺される。そのようなことが起きている国が実際にあるのだ。

私が学習した中で特に印象に残った話がある。その話とは、元々少年兵だった少年の話である。その少年はいつも優しい母親が大好きだった。しかし、少年は12歳の時外出した母親を追っている最中に反政府軍にさらわれてしまう。そして少年の家に行き、少年に母親を殺せと命令する。少年は殺せないというと銃を渡し、それなら腕を切り落とせと命令する。私はこの話を聞いた時、驚愕した。もし、私ならこの命令を実行することはできないだろう。しかし、実行しないと母親も少年も殺されてしまうような社会なのである。そのような極限状態の中、12歳の少年が選んだのは腕を切り落とすことだった。少年は自分が助かりたかったのではなく、母親を助けたかったそうだった。このようなことを私達よりも小さい少年少女が体験しているのだ。自分が望みもしないことを。

このような悲惨な出来事を一つでも減らしたいと思った。少年少女が望む普通の生活をのうのうと満喫し、小さなことで不平不満を言っている自分に腹が立った。少年を兵士にした反政府軍は何を考えているのだろうかと思った。考えるだけで、何もしなかった自分を情けなく思った。それなら行動に移していくしかないと思った。

今、私達に何ができるのだろうか。世界で恵まれない子どもたちのために、少しでも力になることだと思った。理解されない孤独さに悩む子どもたちには、理解しようとする姿勢が大事だと思った。

そのために一つでも多くの事実を調べたり、世界の行政、法律を知ること大切だ。自分の中で誤って理解している事実を見直し、少しでも真実に近づこうとする努力をする。そして、周りの人や多くの人々に伝えることが重要だと思う。個人ではどうにもならないことでも力を合わせることで成せることが多くあると思う。また、情報を交換することで多くの人々が共感することができれば、これまではない大きなことも実行できると考える。

「これからの未来は、現代の子ども達が担っていかなくてはならない。」とよく聞く。確かにそうだと思う。未来がどうなるかは私達の手にかかっていると言っても過言ではない。だからこそ今、この問題について真剣に考えなければならないと思った。少しでも戦争や紛争に巻き込まれている子どもたちを助けたいと願う。しかし願うだけでは何も変わらない。だからこそ少しでも力になりたいと思う。私は学校で生徒会会計を担当しており、ボトルキャップやリングプルを回収し、寄付していた。その経験を生かし、小さなことから力になろうと思った。リングプル・ボトルキャップ回収は個人でもできることなので、協力したい。また講演などを聞いて、現在の世界を知ろうとする努力を持とうと思う。このように私達は歩み続けなければならないのだ。